

校内研修計画

甲州市立菱山小学校

1 学校課題

本校では、学校教育目標である「自ら学ぶ 人間性豊かな たくましい児童の育成」を目指し、(ひ)「広い見方でよく考える」確かな学力の習得、(し)「しっかりとした体づくり」体力づくりの推進、(や)「やさしい心」情操豊かで自他を大切に作る心の育成、(ま)「まじめに働く」勤労の精神の育成、という4つのめざす子ども像を提示して、教育課程の編成や日課表等の工夫を積極的に行っている。

本校の子どもは、明るく素直で、児童会活動・学校行事などの行事や体験的学習に一生懸命に取り組んでいる。また、全校児童が35名と小規模であるため、子どもたちの豊かな仲間意識を育むための異学年交流活動が盛んであり、休み時間や放課後に他学年の子を誘って遊んだり、高学年が低学年に優しく声を掛けたりする光景がよく見られる。

学習面では、今までの研究成果や少人数学級の利点を活かした個に目を向けた指導の充実等により、基礎的・基本的学力を着実に付けてきている。さらに、授業中の全員発言や話し合い活動の充実などの取り組みを通して、自分の考えを他者に伝えたり、他者の意見を聞き取ったりする意欲や力が増してきている。

しかし、少人数の限定的な集団の中では、論理的な言葉を介さなくても互いに理解しあえる側面もある。授業でも考えを論理的に伝えることができなくても、子どもたちの間では、何となく伝わり分かったような気になる場面や、自分の考えはしっかり持っているながらも、伝え方が分からずに途中で言葉に詰まってしまう場面が散見された。そのため、本校では自分の考えを表現する力の向上やコミュニケーション能力の育成が大きな課題となっている。

2 研究主題

主 題 「主体的に学習する児童の育成」

副主題 思考力・表現力を高める算数的活動の工夫～互いの考えをつなげて深める授業づくり～

3 主題設定の理由

昨年度までの研究において、子どもたちが、基礎的知識・技能を習得し、社会集団の中で他者と関わり合いながら生活していくのに必要とされる表現力やコミュニケーション能力を活用して、自分が直面した課題を解決するための思考・判断・表現ができるように、各教科における言語活動の充実、特に算数科に焦点をあてて研究を進めてきた。授業実践の中では、学び合いの方法や思考力・表現力を高める指導の工夫に焦点をあてた授業づくりを行ってきた。

研究実践の成果として、多様な考え方や様々な解決法を見いだす活動を要求する学習過程を設定することで、子どもたちは様々な既習事項を組み合わせることで答えを導き出したり、試行錯誤したりして新しい考え方を見つけるなど、自分が直面した課題を解決しようという意欲が出てきている。昨年度の研究では、図や表、数直線をもって自分の考えを表現できるようにするための指導の工夫と充実を図ることにより、子どもたちが自分の考えを論理的に伝える力の向上を図ることができた。

今年度の研究においても、本校児童の課題解決を図るため、これまでの研究の取組を継続し、成果を確かなものとしていきたい。

その上で、児童のコミュニケーション能力の向上を目指す観点から、自分の考えを伝える段階からステップアップし、子ども達同士の考えをつなげて深めることを目指しての研究実践（授業づくり）に取り組むたい。お互いの考えを交流し合う、学び合い・話し合いの活動を意図的に仕組み、自他の考えの相違点に気付いたり、互いの考えのよさを認め合ったりすることもできるようにしたい。

なお、互いの考えをつなげて深めるためには、子どもたちが多様な考えを持てるようにすることが前提となる。多様な考えを持つことができるようにするための、教材の選定・教具の工夫・提示の仕方・場の設定・教師の発問の仕方・助言やヒントカード等の支援の仕方などについても研究していきたい。

さらに、甲州市「確かな学力」育成プロジェクトとも連携し、授業の構造化の定着とともに、「NRT」「Q-U」調査を活用して学力向上とともに、互いを認め、高め合う学級集団づくりにも焦点をあてていきたい。

4. 研究の具体的内容と方法

(1) 研究内容

- ・児童の実態を把握し、課題を明確化する。
- ・Q-U 検査・NRT 検査の実施と分析・活用の充実。
- ・昨年度までの取組（算数的活動の充実を図るための教材や課題設定・学習形態・発問の仕方等の工夫や改善，授業の構造化，家庭学習の取組など）の継続・発展。
- ・「互いの考えをつなげて深める」ことに関する理論研究を行い，共通理解を図り，具体的指導法を探る。
- ・低学年・高学年ブロックによる研究活動の実践。授業研究による検証。
- ・甲州市「確かな学力」育成プロジェクトと随時連携しながら校内研究を進める。

(2) 研究方法

- ・低・高ブロックごとに指導法を研究し，それぞれ年1回の研究授業を行う。
- ・公開授業等に積極的に参加し，そこで得られた知見をフィードバックする。
- ・甲州市「確かな学力」育成プロジェクトの3つの柱の各担当者を決め，その取組との連携を図る。

5 年間研修計画

研究主任 志村 克人

研究テーマ	教科領域等	担当者	学年	授業の時期	TC要請
「主体的に学習する児童の育成」 思考力・表現力を高める算数的活動の工夫～互いの考えをつなげて深める授業づくり～	・校内研の運営について（主題・内容） ・校内研の年間計画の決定 ・児童の実態把握(Q-U検査・NRT検査)	研究主任		4月	
	・K13法による児童の実態の分析 ・甲州市「確かな学力」育成Pの取組の提案	各担当 研究主任		5月	
	・テーマに関わる学習会（講師招聘） ・低高ブロック研究	研究主任 各ブロック		6月	○
	・授業研究会	授業者	統	7月	
	・教育課程研究（還流） ・低高ブロック研究 ・甲州市「確かな学力」育成Pの取組	各担当 各ブロック 各担当		8月	
	・低高ブロック研究 ・甲州市「確かな学力」育成Pの取組	各ブロック 各担当		9月	
	・低高ブロック研究 ・甲州市「確かな学力」育成Pの取組	各ブロック 各担当		10月	
	・授業研究会 ・K13法による児童の実態の分析	授業者 研究主任	統	11月	○
	・低高ブロック研究 ・甲州市「確かな学力」育成Pの取組	各ブロック 各担当		12月	
	・低高ブロック研究（成果と課題）	各ブロック		1月	
	・校内研究全体の成果と課題	研究主任		2月	
	・次年度教育課程の編成 ・研究紀要作成	教務主任 研究主任		3月	